

報道関係各位

2016年5月9日

2016年3月期決算:売上高、営業利益ともに成長を持続 国内リフォーム事業、LWTとLBTの海外事業が増収をけん引

株式会社 LIXIL グループ（本社：東京都千代田区、社長：藤森義明、以下 LIXIL グループ）は本日、2016年3月期決算を発表しました。日本会計基準（JGAAP）に基づく連結売上高は、前期比 10%増の 1 兆 8,451 億円となりました。主として、前期比 9%の伸びを示した国内リフォーム事業に加え、LIXIL Water Technology（LWT）および LIXIL Building Technology（LBT）の海外事業の売上増加、GROHE の新規連結効果が貢献し、増収を達成しました。

JGAAP に基づく営業利益は、前期比 9%増の 563 億円となり、営業利益率は 3.0%と前年とほぼ横ばいでした。一時的要因を除く実質ベースの営業利益は前期比 26%増の 651 億円となり、順調に成長しています。（親会社株主に帰属する）当期純利益は、関係会社投資関連損失などの特別損失を計上したことから、187 億円の赤字となりました。配当については、期末配当 30 円とし、通期の合計は前年度と同額の 60 円となります。

2016年3月期の売上高および営業利益はともに、昨年 11 月 2 日に修正発表した通期業績予想数値をやや下回る結果となりました。営業利益については、金利低下の影響などで国内の退職給付債務に係る数理差異が 108 億円のマイナス影響となり、さらに中国や中東などの不動産市況の悪化に伴う LBT 海外事業での計画未達 58 億円など、一過性の要因が影響しました。

LIXIL グループ社長兼 CEO の藤森義明のコメント

「LIXIL グループは、堅調な売上拡大を達成しましたが、これはまさに、当社が推進してきたグローバル化の進展によるものだといえます。また、戦略的な意思決定に基づき、事業価値向上に向けた積極的な施策を推進したことにより、当社の事業体制はこれまで以上に強固なものとなりました。LIXIL グループは過去 5 年間にわたり、企業文化、業務効率、ガバナンスの観点から数々の改革を進めるとともに、海外売上比率を 30%にまで拡大し、グローバル市場での足場を固めてきました。当社は確固たる事業基盤を基に、更なる成長と価値創造を実現してまいります」

LIXIL グループ COO の瀬戸欣哉のコメント

（6月に LIXIL グループ社長兼 CEO に就任予定）

「今年 1 月に着任してから最初の 100 日間は、主要 10 か国における数多くの拠点や工場を訪問し、様々な部門の役員や社員と意見交換することを重視してきました。こうした対話を通じて、グローバルに事業を展開する LIXIL グループの将来に大きな期待が寄せられていることを強く認識しています。LIXIL グループの長期的な成長を確実なものとするために、シナジーの最大化、コンプライアンスの強化、機動力のあるフラットでシンプルな組織の構築、といった基盤固めに注力していきます。さらに、当社にとって最重要市場である日本において、メーカーならではの強みを発揮し、顧客に対して価値ある提案を行うことで、さらなる成功につなげてまいります」

各テクノロジー部門の業績*および戦略的優先事項

LIXIL Water Technology (LWT) では、LIXIL、INAX、GROHE、American Standard のグローバルブランドを展開しており、2016年3月期売上高は前期比54%増の6,377億円となりました。事業利益は同100%増の521億円で、事業利益率は8%となりました。2017年3月期は、売上高は1%減の6,300億円、事業利益は5%増の545億円を見込んでおり、事業利益率は9%となる見通しです。ただし、為替変動の影響を除いた場合、売上高は前期比3%増となる見込みです。主要市場である米国においてAmerican Standardが復調基調にあることや、欧州市場への衛生陶器製品の投入、シャワートイレのグローバル展開、米国市場での水栓金具の売上拡大などを背景に、LWT事業のさらなる成長を見込んでいます。

LIXIL Housing Technology (LHT) の2016年3月期売上高は、前期比2%減の6,046億円、事業利益は同16%増の403億円、事業利益率は7%でした。2017年3月期は、売上高は1%増の6,080億円、事業利益は8%増の435億円を見込んでおり、事業利益率は前年度と同水準の7%と予想しています。LHTでは、生産性の改善、高性能ハイブリッド窓（アルミ樹脂複合窓）への注力と高性能樹脂窓のシェア拡大、リフォーム需要に対応した取り付けが簡単で施工時間の短縮につながる新商品の開発を強化していきます。

LIXIL Building Technology (LBT) の2016年3月期売上高は前期比5%減の3,320億円、事業損失は56億円でした。これは、中国や中東の経済減速などを受け、2016年3月に売却した上海美特幕墙有限公司(上海美特)や、Permasteelisaの一部の物件で引当金繰入を行うなど一過性の要因が影響しました。アジア全体で引き続き厳しい事業環境が想定されることから、2017年3月期は売上高3,190億円と4%の減収を予想しています。しかし事業利益では、収益性が低い事業となっていた上海美特の売却や、Permasteelisaグループの利益率およびキャッシュフロー管理の向上から85億円と黒字化する見通しであり、事業利益率は3%を確保する見込みです。

LIXIL Kitchen Technology (LKT) の2016年3月期売上高は、前期比3%減の1,121億円となりました。事業利益は18億円で、事業利益率は2%でした。2017年3月期については、売上高が2%増の1,140億円、事業利益は14%増の20億円の予想です。LKTでは、工場管理体制の強化と生産性向上を通じて、国内事業の利益率改善を図るとともに、中国の合弁事業の再活性化に注力していきます。

流通・小売り事業および住宅・サービス事業はそれぞれ堅調に推移しました。ホームセンター事業を展開するLIXILビバが11年連続の増収を達成し、流通・小売り事業の売上高については、建デポ事業を2015年10月に分社化した影響を調整すると、3%増の1,688億円となりました。流通・小売り事業の調整後事業利益は過去最高の73億円、事業利益率は4%となりました。住宅・サービス事業については、売上高637億円、事業利益43億円、事業利益率7%となりました。2017年3月期は、流通・小売り事業の売上高は2%増の1,730億円、事業利益は3%増の75億円、事業利益率4%を見込んでいます。住宅・サービス事業では、2017年3月期売上高は7%増の680億円、事業利益は29%増の55億円、事業利益率は8%となる見通しです。

なお、LIXILグループは2016年3月期の有価証券報告書より、国際財務報告基準(IFRS)を任意適用します。IFRSに基づく2017年3月期業績予想は、売上高1兆8,800億円、事業利益は前期(速報)比4%増の730億円となります。(親会社の所有者に帰属する)当期利益は、前期の赤字(見込)から黒字化し280億円を見込んでいます。

※各テクノロジー部門の業績については、国際財務報告基準(IFRS)に基づく数値を掲載しており、2016年3月期実績は速報値です。

なお、IFRSにおける事業利益は「売上高－売上原価－販管費」で、日本会計基準(JGAAP)の営業利益に相当します。